

A 政策監補

県営住宅の長寿命化計画を策定し、入居時の修繕はもとより外壁の補修や浴槽給湯設備の入れ替え等に取り組んでいる。社会情勢の変化に伴い、少子高齢化や単身者への柔軟な対応、子育て世帯への入居機会の拡大など、有効かつ的確な提供の仕組みを検討してゆく。

<コメント・考え>県営住宅の役割やコミュニティ持続のためにも改装などの対応が必要。更には修繕費用と入居率とを勘案し、建て替えも含めた検討が必要。

Q5 LED関連産業振興について

県ではLED関連企業集積や人材育成を進めており、新宿の常設展示場を改装した。また優れたLED応用製品をお試し的に購入し、新製品開発や販路拡大を支援している。東京オリンピック・パラリンピックを控え、国内外へ販路を拡大し、関連企業の成長や優秀人材育成をさらに積極的に進めていくべきと考えるが？



「LED」と「藍」2つのブルーを
国内外へ発信する
常設展示場(東京・新宿)

A 飯泉知事

行動計画最終年度となり、販売戦略を加速させる必要がある。常設展示場では商談イベントの充実、藍と組み合わせた高い技術力を発信する。お試し発注は「生きたショールーム」づくりに向けて工夫を加えてゆく。また世界最大級見本市に県ブースを出展するなど販路拡大を図る。

※H27年~LEDバレイ構想「ワールドステージ行動計画」関連企業集積 現在151社

<コメント・考え>お試し発注の予算が少なく十分とは言えず、今後の拡充とともに関連企業の取組みを小中高生に知ってもらえるよう次期計画を立てて欲しい。

Q6 水産業振興について

近年温暖化や生活環境変化により“水産資源の減少”や“藻類養殖の不作”など深刻な影響が出ている。漁業振興には「環境適応戦略」の推進が重要であり、新品種開発などの更なる研究や漁業現場への技術普及などスピード感を持って取り組む必要があると考えるが？

※本県沿岸平均海水温50年間で約1.5°C上昇、栄養塩濃度は減少傾向

A 農林水産部長

環境適応戦略の推進が重要であり、高水温耐性ワカメの新品種やワカメ屋内種苗生産技術の普及、「色落ち」対策として県が特許出願している「海藻養殖専用施肥剤」の実用化を進める。また徳島大学、阿南高専との協定に基づき人材育成や研究開発を行ってゆく。

<コメント・考え>栄養塩減少の中、適応戦略として緊急応急的と中長期的の両面での対策が必要。藻場や漁礁の造成は、養殖漁業や漁獲量回復、更に高波対策につながるものであり推進してゆくべき。

Q7 ジビエ処理加工施設について

徳島県の捕獲鳥獣のジビエ利用は、1トン程で流通量はまだまだ少ない。この要因は捕獲後速やかに解体処理できる施設が少なく、流通体制が整っていないためである。狩猟者確保や鳥獣被害対策の観点から、捕獲鳥獣を地域資源として活用するため、民間の力も活用しながらジビエ処理加工施設を増やすべきと考えるが？

※徳島県のジビエ利活用率 ニホンジカ約3%、イノシシ約1%前後であり四国4県で最小、兵庫県の1/100

A 政策監

近隣に処理加工施設がない県東部から阿南市の空白地域を中心に、県内3箇所でも移動式解体処理車「ジビエカー」の導入実験を行う。さらに検討会を立ち上げ、民間の力の活用も含め、新たな処理加工施設の設置を視野に入れた配置・整備計画を取りまとめてゆく。

<コメント・考え>処理加工施設ができることで、皮製品やジビエの二次加工など新しい産業の創出につながる。ジビエの活用から野生鳥獣の適正管理が進むよう取り組んで欲しい。